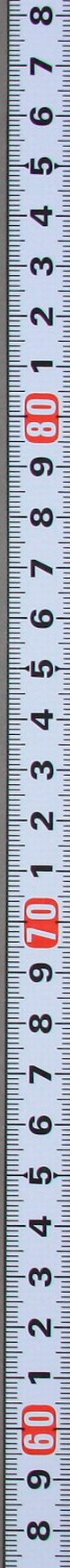





紫式部日記註釋

三



天理文庫

紫式部日記釈三の巻 

みせちは九日にまわす

みせちとは毎年土月中の卯日新嘗祭 （その年の新穀を帝に奉る） 法神にたてまつる祭なり （たてまつる） 是て辰日の暮合に舞をつらうしつる女をみぎの舞姫と

も又うくもふきてみせちと此をいへり舞姫の定貞一代一度の大嘗会 （後世に踐祚せし行を承るを大嘗会といひ） 毎半行をいへり （毎半行をいへり） にもみ人新嘗会に

け四人なり （その相公は交見封事にもいへり） 河海抄 （又傍奉れなくにもいへり） ことにはつ子の新嘗会をいへみぎは四人なり （その次いで） この舞のねころは江家次男

河海抄等に本朝月令を引て浄海原天皇沈吉野宮にたえし （海原に） 神女天降りて舞をまひたまふにまたは袖を奉りし

中文に申されたるを中文より尋ねて云ふ。うらひ日置のつゞはて傍
 中の奥小室をせんたたり。これ御辰日の長命の装束のまゝなり。
是を御辰又傍中の奥小室に貯る。一うちこみおふ。心算はまの小振小お小海
 親原親要抄書小るたり。 一うちこみおふ。心算はまの小振小お小海
 ねなひこみおふ。心算はまの小振小お小海に。花の傍り枝をつ
 くるを心算とふへう。さて後おさくれうり。終つて。さうして。心算は
 いたす。それをも。おかけ。傍り。花をたつ。おもひ。うきとる。たり。
 いとさき。こゆと。い。御の。人。さう。を。い。た。る。は。く。に。お。と。と。さ。と。て
 せ。さ。せ。は。れ。を。い。よ。ご。河海抄に。お。さ。い。つ。の。年。え。公。々。二。人。殿。上。受
 取。二。人。四。所。なり。代。始。お。は。公。々。二。人。殿。上。受。取。三。人。お。所。なり。と。さ。る。た。れ
 は。こ。の。実。威。意。隆。え。公。々。の。さ。り。なり。

小はきになむつ子の年さうと。い。ま。み。満。一。だ。さ。い。え。あれ。え。
 いんが。いのねまのむいなる。だ。い。と。み。小。い。す。を。なく。少。と。た。い。
 つ。と。き。な。火。の。い。う。り。い。ら。う。と。さ。う。た。な。け。な。ら。に。お。申。さ。い。
 ると。海。とも。あ。は。れ。う。う。つ。ま。を。れ。さ。い。や。と。さ。れ。と。人。乃。う。へ。と。の
 こ。れ。は。え。は。

こ。う。小。つ。の。年。さ。う。と。い。ま。二。代。一。度。の大。事。合。ふ。さ。う。さ。う。と。を。お。は。れ。
 と。お。つ。の。新。事。合。ふ。さ。う。と。二。條。帝。は。寛。和。二。年。六。月。序。位。小。つ
 う。せ。れ。り。師。て。や。う。そ。の。年。の。十。月。小。大。事。合。ひ。り。さ。れ。さ。う。景。雲
 物語。目。中。龍。皇。女。お。さ。う。と。さ。う。と。御。辰。四。本。の。真。心。を。お。さ。ら。れ。え。なり。
 さ。れ。さ。う。の。意。い。こ。う。い。ま。さ。う。なり。人。と。さ。う。小。お。さ。ら。の。満。う。け。と。さ。り。

一件天白玉

後ひしりきりさるるえあれをいしきなくきし保りてゆ幸らう
まじき神たのびあれいさきまよふをいんしを杖むくつとい
てえらき海をひ甲ななくまよひてせだものなりすしてこ
の世にこの世をとりすておく文はいつく省きこけりし海ありま
後れもあまこくなくしなをけあにいつあ申さき海に舞姫とも
けあ申さき海をうあし保しうまはさき舞姫とものがくけさ
にけらえんさきたをさなる甲にいふくくそつううきをば
しとあぬふ海をさきをさるる甲をさして武姫のあよふな
りつれをさきまはふの甲にさきくせいさうなるまうさ
いはさしとあぬふ海をさきをさりし和姫にさきの和をさしけみさ

いみじういとまほなきまをありひうのたまふむひたるだてし
とくにいしきをかくちまなりとましなる火のいろふつれをうあゆ
まやう海をさきさしたなけれとまのまぢふえうぬすちともなれ
そし世と名なりとあり人のうしものまほしとつううのまじすま
佛の道ふ保くたえいりなううまなき海をいまめうけふさう
まのやうまのうまにまよひをいんさへし一甲人のまじさよ
ことあり
たうり度上人のいたたまてふさしむういし紙燭
へい海んいさねいやすとすれとたほうたのやきはたをことせえ
らんとたえいひつるまほつむふたう

あの文章姫よを奈へてふつとけしむ申れと程づつとけしむること
なへし。屋上人をつとひたる屋上人よの意なり。いたたねていものふ満さ
まばさるるよなくして。程のあひむくをいふ。いたたねていものふ満さ
ちひたやこもつたもの。ひたと同まなり。しやくきぬまうい。紙燭さ
てえぬえうにいれあれあ。このあひむくをいふ。いたたねていものふ満さ
え申うんとまひくふよ意なり。されを。裁さ満をうくまんとて。屏帳を
引たけよなへし。屏帳の屏に懸て。引たす幔なへし。おしいたはひ
のほを脱ぎなへし。やるといふたちむりくまんとて。これらりれへやると
いふま。ん申うに。儀りなをるあや。たほつたのま。さす。おはすれとま
かうのむりなれと。大さのや。ま。今めり。き。姫の女房なちと。たかへご

とくに。人のえ。ん。と。ふ。か。う。た。ぬ。い。つ。つ。ま。と。帰。き。この口能え。その
を。う。い。ま。さ。け。の。の。な。ま。い。ま。の。東。の。よ。ま。い。つ。つ。ま。と。ま。い。つ。つ。ま。と。
り。と。い。ま。れ。たり。ふ。た。く。平。に。さ。

業達
かりと屋のあぢんのう。つ。ま。か。い。ま。の。う。う。ま。ぬ。や。み。の。よ。に。を。お。に
酒。さ。れ。に。め。つ。つ。う。ん。申。ま。ぬ。う。ち。ふ。ま。あ。ま。た。を。や。う。な。う。ず。が
ん。申。の。屋。上。人。ん。ご。ふ。ま。え。う。う。つ。く

業達朝臣ハ。後小丹波。ち。よ。つ。つ。ま。この人なり。そ。う。い。ハ。初。め。が。ま。に。業。達
だ。う。う。そ。に。あ。や。ま。い。つ。つ。ま。の。う。ま。い。ま。を。ま。せ。たり。を。う。う。と。お。ひ。た。ら。ふ。
友。宰。ね。の。う。う。そ。に。え。め。う。い。ろ。の。う。ま。い。ま。を。ま。せ。し。つ。つ。ま。の。う。う。ま。ぬ。に。
あ。や。ま。い。つ。つ。ま。を。ま。せ。た。る。ほ。と。た。へ。し。つ。つ。ま。け。な。う。と。め。ハ。後。小。丹。波。の。う。う。

の...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

たをハ撓カなりと。雅波決解に及なり。及上人とは。この業を。義官ゆ
 きて。四位の及上人なり。...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

とおふなうとほのめかしてわうーと、さういふやうなうらなをいふ。いふに
 こふ又かうとほのめかしてわうーと、さういふやうなうらなをいふ。いふに
 くさふおれはさういふやうなうらなをいふ。いふに
 うめたなうーと、さういふやうなうらなをいふ。いふに
 さういふやうなうらなをいふ。いふに
 おしてはさういふやうなうらなをいふ。いふに
 ひはさういふやうなうらなをいふ。いふに
 とさういふやうなうらなをいふ。いふに
 右岸お中ねのあつさういふやうなうらなをいふ。いふに
 たうらなをいふ。いふに

無隆卿

いすあーこれと、信長のおうちのげにさういふ。いふに
 ふりて、郵いと同一くお中めさういふやうなうらなをいふ。いふに
 てさういふやうなうらなをいふ。いふに
 まして、友成卿のねまひなうらなをいふ。いふに
 人あり。又いさーのまにれちうーと、さういふやうなうらなをいふ。いふに
 志たりうらなをいふ。いふに
 にさういふやうなうらなをいふ。いふに

實成卿

此の信長を今あつためつ。さういふやうなうらなをいふ。いふに
 長内大臣の清子に、弘徽殿の女侍の所せうとさういふやうなうらなをいふ。いふに
 ねまひなうらなをいふ。いふに

室眞のりまはかしくはふりまて十人といふにありにさし傳は倍
從は越名まで童下仕樋洗をとりととなへれとおそ傳は傳とあ
ふ。二叔の女房はこれほふらしてとておてうといつにや程すへてい
つや。舟へうけし。室眞のほろのらうそまさをいづなり。いづのま
これこれ舞殿とをさる内的女房とものやうにもお申れとさやりに
いあうし。そめふまやう。三木の舞殿は下。信後とものほりまやう。廂
れ方にわさうにうへて。この友室おのや。ほあひつなり。さそこれまで。五日
のことなり

この日のあつた。殿上人まわつきのことなれと。月ころにさそひに
けらや。もろ人たちれめつと。おつけしなり。さるはずれ

夜もろにころ

寅日を清茶試とひひて。清涼をふりさせたり。傳はて。四時せし
なり。三軍根源小。寅のい。殿上の測碎あり。朗詠い。すをうたひて。三
献そと。私寐ありま。雲系抄に。寅日。人数多之時。上臈着。小堂盤
六位。必群居。小板敷云。兩貫首已下。殿上四位。六位。皆恭。元是且克也。近代及
晩頭。尤非かと思て。殿上人ともあはるまをうへし。つきのとをれとま。
下しと。傳幸のころまで。うきをうらうらうらと。さるなり。と。月ころ里居
して。さしひた。あま。さる殿上人との。舞殿とををめつと。と。さ
さ。海さうと。なり。月ころ里居したををれと。この殿上人を。さし。の神
事には。さう。ぬんとも。あやう。んすれ。夜。花を。舞殿。小。土。月中の。卯日。

新嘗會辰日豊明長命にえあおほすれは小忌といふ物を忌すなり。
一代に一度の大嘗會にこそこのごとくよみて外辰の辰日この神事に祈
る小忌の人々は之を招衣を忌りたり。招衣は神事に祈る人の小忌に小忌大忌といふあり小忌は小忌大忌のやうに忌す可なり
よきなりといふ小忌の辰上人の業時よにみゆるは後を招衣を
せてしるはゆめこそりて大嘗會にこそ招衣を忌むなり。招衣を忌むは
そく招衣をん外辰の辰日よにみゆるは招衣を忌むなり。招衣を忌むは
招衣を忌むは招衣を忌むなり。招衣を忌むは
然有^{ニカスル}を^{ニカスル}めつりうまよひの^{ニカスル}招衣を^{ニカスル}けてしるは招衣を^{ニカスル}
を^{ニカスル}忌す招衣なり。招衣を忌むは招衣を忌むなり

そむさう。善文のすけめして。たきおたすふたほきやうなるはこいひ
つふたうりれさせ給へり。せまう人はこのうつ。招衣を^{ニカスル}けり。そむさ
おまのあちこちうへおまうせ給ひて。いらんは。まむ文たさ。一ほ
せは。うち満り。一れ。一づ。に。こと。なる。あちこひ
春宮亮情平に或那の継子隆任なりと承り。たきおたすふたのそむさ。こ
れ隆任小治よきにせ給れとさうにせあり。そむさ。あちこひ。を。さう。入。は
ま。よ。ひ。の。初。め。ま。に。を。さう。れ。う。ま。あ。ひ。を。い。た。た。れ。と。の。う。へ
る。招。衣。を。つ。う。へ。け。り。と。さ。う。な。い。その。あ。ち。こ。ひ。は。う。え。に。な。る。へ。く。ま。う。よ。ふ。
善文のあちこひ。たきおま。一。う。ま。あ。ひ。を。い。た。た。れ。の。た。め。善。文。
亮。な。る。隆。任。を。め。して。善。文。も。夫。な。る。人。れ。に。ま。む。小。忌。に。な。る。へ。一。そ。ま

候。江家次第曰。元日々々。重帽額舞臺ナト下ニ引候ヲ水引ト申候。是ハ船
 引候ヨリ出タル名目ニテ有テシク候ヤ々。畢竟帽額水引ハ高下ニテ
 コカヘタルハカリニ候云々。錦ヲ用候ヲ錦額ト申候。竹簾ニモカケツヘ申候云々。
 及クナリ右ノ所ハ江家次第新舞會に構立舞臺云々。其東西北面懸豆帽
 額ナト云々。又枕蓆子にもがりのすは申してこそれおれうちねくといふ
 一をいもやわすいしあけてぬいひりまはさるにや。又まのものがりのあ
 さやとなすのとのうらんのをたふ又もほのものがりのあけたなとこそれおれ
 だ。ふら蒼にけさしたるふおをささる。於そよさよを。識者よといわ
 ころむへし。ふらにさるてい。四所一すなほにねむしくふささるてしなす。油
 なく。ゆいわたなき。舞臺をさめ。信達よのさ油なり。ころにからえは。いざに

ねうらえにむき。信達よとのあり。さ油まをいさ。ねうらにいたる本のをささる。さ
 さかろえ。うらにさるて。さわらうさ油を。さ油のけりあふなり。さ油を
 さい。今の世をささるなるものなり。まこれ。て。寅日のことなり。 といわた
 親が命。おいた。と。さ。さ。え。舞臺の信達よを。卒手て。おな。り。なる。へ
 ー
 うらぬと。たふ。ねらんの日のさ。さ。油。あ。ち。と。は。は。れ。ろ。う。な。り。さ。る。もの。を。
 備して。い。さ。さ。ん。な。と。ふ。も。と。なく。申。う。た。ふ。あ。申。を。な。り。い。つ。て。
 さい。た。は。あ。れ。なく。む。さ。つ。ふ。して。い。と。ほ。く。ら。せ。あ。れ。さ。る。は。と。う。さ。れ
 て。ふ。う。う。ふ。ら。い。さ。あ。たり。と。な。り。う。ー
 うらぬ。年。た。ふ。と。い。ふ。ふ。に。さ。う。い。と。を。む。つ。ま。の。と。う。ら。う。と。い。ふ。み。つ。た

もけけらあそえとさ(あ)れたらうとさうなまひの中におあきと
そくくくまたせほさうれまんたちれまきーまたなにはてあ
まぬ(あ)身れほとふまれとれなうーふれとーとゆーれ
ふあちといふれさうんとあをくたさうれたきれうたくな
ーさや

我もくそたさーさけーとほさあさう。ていさなはんさう。またて
いたさ倍ほよなう。めうつうてそまウツリニテといふと同。げそ氣おて
れうまうれヤリスなう。いほりーさま。今やうのうた人のあふ丁さ
おさうまはりのけちめえとさ(あ)れ。我くまたすれ。秘れた月おをそ
さうめげさやうほさうとさうほとあのを又あさかしてえさー。えさ

うはといふはあそさううてたのつうひきたう。ひの中。童事。暗ハ。日。のう
ちふあうと。あふひり。麻もさ。この。陪。ほよ。にも。たせぬさう。そ。今。一。次。ふ。ひ
り。さ。や。ま。ま。れ。さ。う。の。さ。ま。の。ま。ほ。ー。また。中。あ。さ。を。陪。ら。え。さ。さ。う。は
ー。さ。陪。ほ。の。身。の。さ。ほ。と。ふ。ま。れ。と。あ。う。な。う。う。と。な。う。ま。て。そ。ま。ウ。ツ。リ。ニ。テ
ふ。井。フ。ン。ニ。と。い。ふ。ほ。と。の。ま。さ。う。ふ。ま。い。い。ふ。れ。さ。う。ん。と。い。ま。さ。ー。また。さ。ま
に。い。ふ。れ。さ。う。ん。と。い。ふ。ま。う。体。の。倍。ほ。あ。れ。入。ほ。よ。の。つ。ら。さ。ま。て。さ。
と。細。を。そ。さ。な。さ。う。と。終。本。を。い。れ。た。う。ま。そ。ん。中。を。あ。お。ー。と。い。い。あ
ひ。な。く。ま。と。な。う。た。た。さ。ー。い。や。く。な。れ。人。の。う。へ。の。と。を。か。さ。あ。ー。や。う。て。あ。ふ
は。ダ。チ。ナ。と。い。ふ。ま。さ。う。ふ。さ。あ。さ。ー。中。ふ。さ。ー。親。中。の。ま。中。ほ。ま。と。い。
く。あ。り。親。中。が。こ。も。り。と。い。ま。さ。ち。中。さ。う。と。い。

だものうらたらしそのあをひきつるそみのまをうとあひたふ實成
 相郷にさうあふらやまをさつてはくう衣小あをひきたし
 一さた。祢たけなり。さうそのうたちをひくはいと満原にさるに
 丹波書え業きならし。あふら。あをひきつるそみハ。花を鮮に白椽小
 二ふありあをひき青久あつさハ赤久なりと名たり。さうそあふらと赤
 白椽書。これと汗衫なり。さうも童女のうらふささとたけなり。水干のうら
 けやうからとたけなり。と湖月抄の長室にのるなり。これ係は。今ありためつ
 三もつえ。陪送のうらなり。あをひきを青久と胡曹抄ハ。麴塵袍号青
 また湖月抄花小。さうもえ。麴塵なとといふと名て。帯は侍袍のまう
 此とたけなり。せしを。唐衣にて名たり。これやう乃下は。さうこのを

ちさうと名たり。業書物に同じたあさや。あふら引きた。あふらなり。されえ。さう
はたかに業書の傳ハ。祢たけうらと名をさう。
 仕の身はほとと。麴塵をと。唐衣にて名たり。祢たけなりと名つ
 なり。行ふし。引えし。なといふと。丹波書の陪送のあふら引きた。
 うらものを名せたるをいふ。これとあの方のうら。うらと名。さうと名。さうに
 せしゆきと。唐衣をさうて名と。さうと名。うら。は。初意。まに。まに。つ
 えのうら。あをひきをさせたるは。たし。一。祢たけなりと。うら。や
 ずうら。あをひきた。さう。六。信。と。花。人。な。は。さう。うら。や。枕。草。子。め。た。さ
 せ。花。條。小。あ。信。の。花。人。う。ら。な。は。め。た。た。れ。い。う。ら。香。ま。た。し。と。え。し。と
 一。花。を。ぬ。あ。や。ね。り。と。花。を。い。ふ。は。う。ら。さ。た。あ。を。ひ。ろ。す。う。た。な。と。い。と。め。て
 たり。なり。と。名。を。さ。て。祢。た。け。な。り。と。い。う。名。を。さ。し。一。さ。う。と。名。の。う。ら。

もきこしを丹波守の童女のうち一人をいづかへて丹波守の童女
まゝ白椽をせうしとあひたふそれうと座守おの満ちてき神のけ
なりといひて座守おの陪垣ともれまうならしなれえなりそれ小く
ふれを丹波守のうらをれうちふ人へ満保おと見えぬうあうといふまう
うたちまよふまのまに心をつけて見えへあをまふまてうれれとだこ
くま文まひとうあてうらくまなふあへ一人乃うちおまじやうま
さ乃よまおれえなりうう省きたるまはづうなまよふ心をとめま
へまとせ

無隆郷

髪

蒲萄漆

室桐中おそくははとせひやふうまをうこれこはまこま
はまはんとたりうさそまへなり中おをうりえひりめをさせたり

中へ申あぐくく心あうちあておのいあひはやなといとすれ
た

おのやうは身の長のはくまをひきたえひりめをま初まきに室お中
おのこひのあおまをうらまをひりめをまてまさせたとあをえれい
まの汗移お引たうて尾張守のえまのえひりめをまてまさせたとえひりめい
こころうて申あぐくく心あうちあておのいあひはやなといとすれたのこ
いまを保れうまええすまなまらと敷息のまをふまなてはをえま
ままへしあまめ人ま新中平まは下仕のまはまらま
あうまあうれまのまを今かおれり
あうまあうれまのまを今かおれり

うゝ女おそあゝぬゝと見申れ

府へ傍々の奥を、歌張雜要抄の兼脈と、字ふあやうし見て、あやう、檢
府をへし、それを、藤人のとらむ、かゝり、に、る、も、く、ま、の、藤、の、の、を、ほ、う、を
し、る、な、あ、し、と、し、た、ま、い、れ、を、装、束、の、う、ち、に、一、種、な、れ、を、ま、も、あ、う、へ、を、さ、か
は、め、あ、い、ま、ま、ち、く、く、ま、た、せ、に、と、あ、を、さ、し、は、序、文、の、は、ほ、と、と、れ
と、う、の、ま、あ、あ、い、ん、ま、は、幸、に、江、原、え、ん、お、は、い、な、し、な、し、と、し、た、を、備、え
ま、う、ま、あ、り、て、う、ほ、う、ち、あ、う、ま、備、な、と、り、た、ほ、つ、ま、さ、う、た、と、あ、れ、を、か、う
し、ん、と、な、け、や、う、と、は、藤、人、の、う、ち、あ、う、あ、う、て、ま、ま、を、ま、て、裁、ん
と、し、て、これ、ら、う、け、さ、を、ふ、し、や、ま、を、今、い、と、同、く、と、か、け、や、う、備、な
り、女、お、そ、ま、ち、な、け、や、う、備、を、や、う、ま、の、う、ち、に、あ、う、け、お、裁、ん、と、し、た、

けやうそあまふかすすだにゆゝかゝぬま備の女のをししを裁んはをあゝぬ
を裁り。んと新平にら。

まねを、い、れ、る、や、う、あ、て、い、ま、お、ら、と、い、ひ、て、又、ま、い、ま、の、備、の、い、あ、く
ま、う、わ、た、ち、う、い、う、備、に、い、ま、い、ま、と、は、い、ひ、ま、い、ま、は

まねの、或、部、の、ま、い、う、ま、い、ま、の、い、ま、い、ま、を、被、華、ま、い、に、ま、い、ま、い、ま、ら、ん、
し、の、詞、な、り、又、ま、い、ま、の、い、ま、い、ま、を、被、華、ま、い、に、ま、い、ま、い、ま、ら、ん、
備、の、ま、い、ま、い、ま、ま、い、ま、は、サ、ウ、テ、モ、裁、ん、ま、い、ま、い、ま、の、い、ま、い、ま、

ま、い、ま、の、詞、な、り、ま、い、ま、の、い、ま、い、ま、の、ま、い、ま、い、ま、の、ま、い、ま、い、ま、
を、ま、い、ま、い、ま、の、ま、い、ま、い、ま、の、ま、い、ま、い、ま、の、ま、い、ま、い、ま、
ら、ま、い、ま、い、ま、の、ま、い、ま、い、ま、の、ま、い、ま、い、ま、の、ま、い、ま、い、ま、
と、サ、ウ、テ、モ、裁、ん、ま、い、ま、の、ま、い、ま、い、ま、の、ま、い、ま、い、ま、の、ま、い、ま、い、ま、

とみれくさう。ねふましくすたきれとと申人れまのいふまじい
はなこ申

あの傍屋を今あつたり。あつたえ申。中ま此序局をいふなり。えまたす
えうはなをさういふなり。なふましくすたきれとと申人れまのいふまじい
に笑い。かく。傍屋のそと。あつたきまのそと。まうと申。あつたきまの
とこの山。帽類とこもつて。あつたきま

うの女序のいふたふ。なまう海とゆい人。なん。なをれて。あつたきま。申
お申。おむう。え。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。
た。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。
あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。

あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。
たり。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。
さん。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。

この女序。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。
と。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。
あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。
あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。
あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。
あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。
あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。
あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。
あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。
あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。あつたきま。

けりて東の言にありし事、元来なりと源がねと名にたりし事、ね
 けりておのたよりなり。今、中々の世に此の書を作らる。此の言に
 て、^{スミ}ふもくし、不知の言にありし事、元来なりと名にたりし事、ね
 けりておのたよりなり。今、中々の世に此の書を作らる。此の言に
 けりておのたよりなり。今、中々の世に此の書を作らる。此の言に
 けりておのたよりなり。今、中々の世に此の書を作らる。此の言に
 けりておのたよりなり。今、中々の世に此の書を作らる。此の言に

ねまふ、あゝとて、あはたまた、中にて、けりておのたよりなり。今、中々の世に
 ねまふ、あゝとて、あはたまた、中にて、けりておのたよりなり。今、中々の世に
 ねまふ、あゝとて、あはたまた、中にて、けりておのたよりなり。今、中々の世に
 ねまふ、あゝとて、あはたまた、中にて、けりておのたよりなり。今、中々の世に
 ねまふ、あゝとて、あはたまた、中にて、けりておのたよりなり。今、中々の世に
 ねまふ、あゝとて、あはたまた、中にて、けりておのたよりなり。今、中々の世に
 ねまふ、あゝとて、あはたまた、中にて、けりておのたよりなり。今、中々の世に
 ねまふ、あゝとて、あはたまた、中にて、けりておのたよりなり。今、中々の世に
 ねまふ、あゝとて、あはたまた、中にて、けりておのたよりなり。今、中々の世に
 ねまふ、あゝとて、あはたまた、中にて、けりておのたよりなり。今、中々の世に
 ねまふ、あゝとて、あはたまた、中にて、けりておのたよりなり。今、中々の世に
 ねまふ、あゝとて、あはたまた、中にて、けりておのたよりなり。今、中々の世に

中世の教本のまじりたる。昨きづの酒を極きそのふた
 かひりて日女ののくしと極にす。てその極のうりなす。てその極の
 ことわらぬ。てその極にす。てその極のうりなす。てその極の
 ことわらぬ。てその極にす。てその極のうりなす。てその極の
 ことわらぬ。てその極にす。てその極のうりなす。てその極の
 ことわらぬ。てその極にす。てその極のうりなす。てその極の

ことわらぬ。てその極にす。てその極のうりなす。てその極の
 ことわらぬ。てその極にす。てその極のうりなす。てその極の
 ことわらぬ。てその極にす。てその極のうりなす。てその極の
 ことわらぬ。てその極にす。てその極のうりなす。てその極の
 ことわらぬ。てその極にす。てその極のうりなす。てその極の
 ことわらぬ。てその極にす。てその極のうりなす。てその極の

ことわらぬ。てその極にす。てその極のうりなす。てその極の
 ことわらぬ。てその極にす。てその極のうりなす。てその極の
 ことわらぬ。てその極にす。てその極のうりなす。てその極の
 ことわらぬ。てその極にす。てその極のうりなす。てその極の
 ことわらぬ。てその極にす。てその極のうりなす。てその極の
 ことわらぬ。てその極にす。てその極のうりなす。てその極の

たてふここめてよもえたり。た補のねもくーてひつひまじらひ改れすか
けり

ねほしーとらわぬ人ーとわらぬて。きむ日しけをあらましきとえー

二の由は。兼取の信濃のまほなり。とらよととほめたてて。きむなれん。
ひ。賢明。まほ合につこしほつ。ま一人ひよとらひて。きむなれん。
ま。だ。え。と。う。ま。た。な。り。日。け。の。縁。お。こ。し。と。は。ひ。な。り。ま。た。日。け。を。
ま。た。す。れ。ば。ま。ほ。の。り。な。り。は。れ。ま。か。ん。と。ま。ら。ま。う。ま。ほ。か。り。と。は。ひ。な。り。
ま。の。ま。一。兼。う。ら。ま。り。の。ま。う。に。ほ。く。兼。取。信。濃。よ。の。ま。ほ。な。り。と。ま。ら。
て。これ。も。な。ま。ま。な。り。ん。と。日。け。な。ま。の。ま。ほ。の。ま。え。け。よ。ま。ら。ま。う。ま。ほ。を。
て。い。し。す。く。れて。と。や。い。ふ。お。ま。う。と。ま。ま。ま。う。て。だ。く。い。ま。ら。な。り。何。れ。日。け。

かのかと一れとまえ。なまのすてのあり。まほなり。又日け。つとく。兼取のうらま
れ。おて。博の女房。ま。ま。お。え。ま。れ。と。ま。日。雀。を。う。ら。兼。取。の。博。を。れ。え。や
て。博。お。と。う。つ。て。は。ひ。な。り。ま。の。う。ま。て。は。ひ。な。り。ま。の。ま。え。つ。な。り

中書人

ねまへは。ねをーくは。まをーま。ま。ほ。ふ。ーな。て。あ。い。ま。な。ま。あ。ま。ま。い。

ま。と。の。清。え。す。ま。と。ね。と。ろ。く。ー。う。ん。と。ま。ま。ま。ほ。あ。え。ま。う。ー。ま。さ。

と。つ。ま。え。は。ま。ま。え。ー。の。ひ。や。ふ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

う。ま。

ね。ま。い。ら。ま。

ま。ら。ま。

ま。は。二。系。流。れ。を。ね。な。ー。す。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

ひくえうにたえられ若葉草にまろふるほこまなてきくさるたまきほよと
はつとらるとにたれなとこをこれと同一格なり。またまたとつこをばつては。
うきふしのひやふと竹をひれてんきふ。うきふとせせきチチアラセルを
アキアキふ。はつとらとあつて中まらうとあつてきけうはあつて
はれとおなまの如き。如房とのつこをばつた。是よりつひきうなるやうなれとこ
うやうひつてなるふいひつてつひつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
もゆいれとつてつてつてつて。平本まにちひさかんとあつてつてつてつてつてつて
さうせはえにおひ深りぬへ。まらうとつてつてつてつてつてつてつてつてつて
うきふとつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
君もまらうとつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

けまとにきふふとつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
とまらうつては女侍とのつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

これ以下とてよれ人のにはたなり。中納言は公徽殿の女侍に侍る女房を
へつておひ初。おきにうきふらぬへつて中納言のつてつてつてつてつてつて
このおまふとつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
もしかうとつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
たれをなく。されとつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
ゆれとつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
れあつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

さふ内己なりけしひうちつけふましく一さきまの日の取のさうぐく
はげおをうらうらうらう。まうやうなる殿上人をとひふなうらうつれく
なうん

いころそ。昔々。辰りあうらうまをいふうらうつけおえ。サニアタリテの名をう
けまひの下に。まうらうらうらうらう。かこの日ハ。外辰お口のうらうらうらうらう
あうん。うらうらうらう。ハ。次ハ。賀茂の辰時祭のとりな。なる。そを祭に調楽をう。調楽
ハ。試楽と仰とみて。あうらうらうらうらう。まてこは。河海抄ハ。臨時祭調楽。十一
月午日。於北陣。構假屋。有儀式。有饗膳。勸盃等。拾叢抄ハ。十一月下
未日。賀茂臨時祭。試楽なとえ。たふ。辰口の辰舎の取一と。調楽乃
あうらう。ハ。午未日ハ。さほるとありての取なうらう。ハ。辰口の

辰舎の取一とありて。うらうらうらう。まてこの日の取のうらうらうと。うらうらうらうらう。たうら
ふと。そと。辰舎の取を。調楽と仰一ん。まてこは。辰口。辰舎の取を。うらうらうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。
調楽とえいん。辰時祭の調楽をとり。論をたのむや。まてこは。辰口。辰舎の取を。うらうらうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。
うらうらうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。うらうらうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。うらうらうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。
にうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。うらうらうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。うらうらうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。

ふ。私のこと。さうらうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。うらうらうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。うらうらうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。
て。あうらうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。うらうらうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。うらうらうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。
をうらうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。うらうらうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。うらうらうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。
やすうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。うらうらうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。うらうらうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。
かにうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。うらうらうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。うらうらうらうらう。まてこは。辰口。辰舎の取を。

り。正しく十一月廿八日。下の酉はあり。種中。新中の備。注。教通あり。
ふらふへし。それ。後。檢。送。系。に。二。条。あ。た。政。大。臣。才。お。ふ。何。く。ま。の。つ。ひ。
何。ぞ。に。と。む。に。て。あ。へ。し。の。ら。た。政。大。臣。才。お。ふ。何。く。ま。の。つ。ひ。に。て。大。
二。条。國。白。と。す。は。て。し。て。

持の目も、れ。お。ひ。を。な。は。は。屋。れ。と。の。わ。せ。さ。せ。経。り。え。ん。た。ち。め。を。い。ひ。人。
お。さん。た。ち。も。こ。も。う。て。ら。一。般。ほ。持。度。に。た。り。い。と。よ。の。さ。こ。う。に。た。け。
そ。ひ。ー。たり。

持の目、い。節。酒。日。を。う。お。ひ。の。こ。と。二。の。ま。に。い。う。い。ひ。人。を。味。の。味。の。言。人。を。う。い。
お。ひ。の。や。う。い。人。の。内。裏。に。よ。の。わ。す。ら。と。ま。で。常。本。半。に。馬。頭。若。武。部。頭。
そ。の。い。に。こ。も。う。ん。と。ま。か。れ。う。な。と。ま。る。な。り。ま。で。さ。わ。ら。い。お。兼。の。上。の。う。
初。逢。ま。し。に。う。さ。や。え。ん。の。ま。に。な。う。ぬ。ま。持。の。日。に。内。の。い。の。い。を。し。え。よ。の。と。

おんた。ち。こ。の。い。人。乃。君。た。ち。と。い。れ。ら。れ。い。こ。も。う。経。ひ。て。と。ま。な。り。ら。一。般。
お。ひ。か。ら。う。

ほ。と。め。て。う。ち。の。ね。ほ。い。と。の。け。持。身。こ。の。と。の。ま。さ。か。ー。ん。お。さ。ー。と。て。い。ひ。
内大臣

に。け。ら。あ。ま。ー。そ。こ。お。た。ふ。あ。ま。ー。の。ま。う。ー。は。こ。を。す。な。たり。お。こ。れ。い。
い。ま。で。ち。ん。の。こ。い。お。う。の。う。う。い。な。と。つ。ら。の。君。の。び。ん。を。せ。経。り。へ。
ま。い。ー。ま。ま。ー。たり。

は。と。め。い。お。ま。あ。ー。た。の。い。く。お。ま。ほ。と。を。い。い。内。大。臣。い。の。ま。ま。に。て。実。成。々。弘。
お。兼。の。女。律。な。と。う。お。又。な。う。と。あ。に。お。い。う。あ。ま。ー。そ。こ。は。あ。ふ。麻。を。と。い。れ。て。こ。
な。た。ら。う。つ。ら。を。あ。ま。た。う。そ。そ。こ。の。持。の。め。れ。を。い。れ。て。一。日。の。通。り。に。た。
こ。せ。た。な。う。ま。う。ー。そ。こ。は。早。子。を。い。う。れ。う。の。お。お。を。い。ふ。か。う。う。い。え。若。使。小。

て。和名抄に。櫛鬚所以理髮。或曰。櫛鬚和名加美賀岐。と云ふ。さう少きや。て。びんせきと云ふ。さてこの鏡櫛。櫛鬚の三種。いづれのふれ侍の君の。うた。つら。清ん。水うに。と。い。つ。ん。西。で。た。て。た。さ。へ。へ。え。こ。れ。ふ。た。ふ。あ。て。に。う。ち。ひ。て。た。う。け。れ。あ。り。な。め。く。さ。げ。ふ。た。つ。て。ち。て。あ。や。ふ。ー

そこのふたさうのすゑだ。さう。一。袋のふたさう。あ。て。い。ね。の。後。髪。の。ま。に。い。お。ー。入。れ。筆。の。毛。を。い。ろ。く。考。へ。て。つ。つ。う。そ。の。毛。を。と。り。だ。う。う。さ。て。い。え。れ。た。後。と。ま。げ。さ。う。な。う。ー。と。あ。け。き。は。あ。い。そ。省。さ。た。を。ま。ま。ー。さ。し。海。い。の。書。を。足。て。ん。う。へ。ー。う。ち。ひ。て。た。と。い。ふ。ふ。ー。た。う。あ。い。ん。あ。い。と。い。う。の。い。衣。え。こ。ふ。ふ。さ。う。さ。い。て。と。さ。な。り。印。さ。海。さ。う。ー。初。筆。ま。に。そ。の。え。こ。の。う。ち

に。い。ふ。ま。て。お。ー。工。を。う。た。た。い。と。な。り。口。う。け。の。区。分。と。い。う。ま。い。口。け。と。よ。み。ー。区。分。の。な。り。さ。げ。ふ。た。つ。て。ち。て。は。う。れ。筆。ま。に。う。け。れ。あ。い。ん。あ。い。の。書。の。後。う。に。ま。う。い。て。ま。さ。ー。く。え。ん。だ。た。き。を。ま。ま。ふ。た。つ。て。ち。て。あ。や。ふ。ー。と。い。つ。な。り。さ。し。と。ま。ま。い。だ。ち。た。あ。い。あ。う。て。こ。の。区。分。初。筆。ま。に。後。拾。ま。某。等。に。え。た。あ。い。ん。さ。げ。ふ。た。つ。て。ち。て。と。い。つ。さ。海。な。と。う。れ。松。の。後。髪。を。え。ん。ら。く。ん。く。ら。か。い。の。書。

ことのみたひて。さあ。う。れ。と。え。え。ー。い。う。れ。を。乃。ま。ら。う。と。ん。え。詰。ひ。て。う。う。い。く。ー。く。あ。い。詰。つ。な。う。う。と。我。ま。き。ゆ。り。ー。い。な。う。う。ー。た。い。ふ。れ。と。さ。を。い。と。け。う。と。く。ー。う。う。書。

ことのみたひて。さあ。い。中。文。の。女。房。と。の。一。時。の。た。い。ふ。れ。と。さ。を。い。う。く。区。分。

のほ緒り物のとく一はわさりのねといふ事なき。まゑ中まをり。さ
ておの緒り物いお房ともの一はさなるをさ事なき中まをり。結をせたる
此とほ一てそまをり中まおいさうなる。教通中おの。おの使のほ
にうくとく一はわさりの結とさうと。ほおひなり。あさうねとさう一は
まきゆり一とつくまをり。後拾遺集おあをり。そのふたなきをといま
て。つういそ中まのさうなるをわさやとさうなり。このまを。備中にえうと結ひ
たさひくとさう。ささえむけおひぬとさう。ささおの緒り物いお房とさう。
ん系君かとして。まをり一はわさり。ん系をり。このまを。いあう。ささを。いあまを
り。うとく一はわさり。はれ。ん系のおえたおのこのまを。さう。いあう。ん系君のささひ
いらんせせせたるに。ん女のおまを。このえ結ひて。これを中まをり。結をせたる。この

とく結ひて。このねとさうとく一はわさり。い結ひ一なり。さう。い。い。は
さう。い。おまを。の。い。ん。ま。を。り。い。ま。を。結。ひ。て。ほ。と。を。い。ま。と。く。一は。わ。さ。り。と。い。あ。の。こ。と。く
一は。ま。を。り。を。う。け。て。け。い。ま。と。く。一は。わ。さ。り。を。あ。う。た。れ。と。い。ま。を。り。

倫子

とのうと。緒りのほり。そのいらん。はうの君は。友さう一て。いと
おく一く。ねとさひ。結をさうの命婦。まひ人。おまめ。を。え。や。う。け。
ち。ま。を。り。く。地。を。り。け。

友さうして。死を結。結。小。陳。お。ま。の。妹。以。扶。友。兼。人。様。倍。ほ。山。吹。と。さ。た
り。い。つ。れ。も。つ。う。を。さ。へ。い。ま。を。り。結。ひ。て。い。の。君。長。徳。二。年。に。生。れ。結。ひ。て。こ
と。ハ。十二。ふ。さ。う。結。ひ。お。ま。を。り。さ。う。の。命。婦。を。この。君。の。乳。母。を。り。初。め。を
に。どの。う。と。ね。う。ま。せ。い。い。め。の。よ。命。婦。も。を。り。さ。い。あ。う。い。お。め。を。つ。う。て。つ

いふの事なりしは、いふにほいしむるに、まづいふべし。この事をいふに、
いふは、いふにほいしむるに、まづいふべし。この事をいふに、
いふは、いふにほいしむるに、まづいふべし。この事をいふに、
いふは、いふにほいしむるに、まづいふべし。この事をいふに、

いふの事なりしは、いふにほいしむるに、まづいふべし。この事をいふに、
いふは、いふにほいしむるに、まづいふべし。この事をいふに、

いふの事なりしは、いふにほいしむるに、まづいふべし。この事をいふに、
いふは、いふにほいしむるに、まづいふべし。この事をいふに、
いふは、いふにほいしむるに、まづいふべし。この事をいふに、
いふは、いふにほいしむるに、まづいふべし。この事をいふに、
いふは、いふにほいしむるに、まづいふべし。この事をいふに、
いふは、いふにほいしむるに、まづいふべし。この事をいふに、

いふの事なりしは、いふにほいしむるに、まづいふべし。この事をいふに、
いふは、いふにほいしむるに、まづいふべし。この事をいふに、

々々次人長申請可勤先張由復座次先張終頭歌朝倉曲歌人歌
之次歌其駒之時人長立舞
每宮社にいしはんふんしんが、
いしはんふんしんが、
いしはんふんしんが、
の神樂、いほ忌のやうな、いほくさへり系りたれ、いほさうとを
て、西宮社に、兩日御物忌無神樂、雲系抄に、翌日、守御物忌之時
或止之、守の當の保、りなこへ、なとをもえたり
うまうたり、いほくさへり系りたれ、いほさうとを
て、西宮社に、兩日御物忌無神樂、雲系抄に、翌日、守御物忌之時
或止之、守の當の保、りなこへ、なとをもえたり

いふの事なりしは、いふにほいしむるに、まづいふべし。この事をいふに、
いふは、いふにほいしむるに、まづいふべし。この事をいふに、
いふは、いふにほいしむるに、まづいふべし。この事をいふに、
いふは、いふにほいしむるに、まづいふべし。この事をいふに、
いふは、いふにほいしむるに、まづいふべし。この事をいふに、
いふは、いふにほいしむるに、まづいふべし。この事をいふに、

いらせしとては許しとては、えいさしはかたかて二十とておぼえたり。
と後本館いそいそとて、こゝろに、賀茂の除めおのこをりけり
志えはのた九日にまかたせしめてまかりしことありしに、いそいそ
と、賀茂のすまゝとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、
いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、

おぼえたる除めおのこをり、十一月廿九日、すまゝに、いそいそとて、
いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、
いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、
いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、
いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、

文の、教下、平に、今

教下、平に、今、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、
いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、
いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、
いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、
いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、

いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、
いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、
いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、
いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、
いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、いそいそとて、

うきに東なるまじりなまふにほくしとほくしとすしとすしとほくしとすしと
してなんけつちうしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしと
のちひなれたまふとすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしと
らすほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしと
たはふえのさるたすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしと
かうきとすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしと
きくとすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしと
まらまけ申くとすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしと
此らのまほふほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしと
いふらぬぬいをさらほにすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしと

きてとて年たけてのうらやういとはやく世のうらんとおふんのうち
不都合にておとさかぬやんのうちすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしと
さ師とて不都合おておとさかぬやんのうちすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしと
萬葉冬終にぬり

ほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしと
つらひとすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしと
結うたさのうらやんを長押しとすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしと
年ひ神りおとすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしとほくしとすしと

追難のこと候中に及なり。これをなすひともねふやひともいふ事根
源の追難といふ。年中此疫氣をさふんきと名たり。秋諸書に

此の事... 竹... 武... 夜... 人...
ナシイナリ。

武... 竹... 夜... 人...
ハナシイナリ。

け... 武... 竹... 夜... 人...

武... 竹... 夜... 人...
日本記畧万壽四年。二月廿八日乙亥。今夜。殿上。口竊盜。利。取。

さぬいすさうのびりさのふさうはこれをもる日にくれなわえなふ紅
をさる日えこれなふまとまふのことなり。まききすさうふ山吹のこ
りうすきさうふうは久なとつ祿のまををひたひかむのえうと。
うさきとらふいとふらしたはふさうふ

以上六納言の服装の予備なり。これと朔日。坎日にして戴鉢のたとふりたる
にはまらぬの如き方の朔の日の服装をひいてをたとふさうかと。三の
やうのをいふと。たのつう。されふひうねて。年の暮の朔の日の服装をよ
ひてなり。ふさうはこれとらして。紫のこをよなへし。皆練のことあふひ
りうに久。侍中に紫のうほさをよとあり。むらさうと。まききさうの古を
一度にとらして。まききさう。穢者ふとあり。 ふさうはこれなり

かこ平にさう

ふらさうの表の鈕しとらして。たさきまききさう。さうの
ほり。さうのれなふの。まのめくともせつ。たかー。めれうちたさう。ひと
をぬひうさく。たせつ。う。おたかー。ひらの。たさきの。めへう。ささきひとめ
の。う。さきの。たさきの。をねらな。ぬひさう。へうとく。し。ささきの。袋。
あう。まの。う。衣ひとく。の。まををりて。さき。まを。ひとく。め。たり。ふ。と。を。あ
し。けふ。こ。ふ。ま。と。ま。つ。さ。う。は。さ。の。師。て。さ。う。た。ふ。ま。を。な。ら。う。く。し
く。せ。う。に。た。け。な。ら。ん。は。ふ。ふ。さ。う。の。な。る。人。の。う。ほ。ふ。と。こ。ほ。ふ。か。ほ。ひ
をうけなう

いさうーとらして。いさうとらして。はうの。ほり。まきき。保水。り。たさき。まきき。を。な

り。うらめたり。ハ。澤めたり。を。ら。しく。ハ。切者ナかり。ふ。ろ。ろ。ハ。肥たり
たをり。な。へ。これ。を。掌。の。若。の。若。林。あり。あ。う。さ。海。の。た。ち。の。ま。り。を。い。ふ。
大納言君は。い。と。さ。や。ふ。ち。ひ。さ。し。と。い。つ。こ。な。を。人。の。あ。ら。う。う。は
く。し。け。つ。ふ。く。と。こ。え。な。う。ま。い。と。せ。ひ。や。ふ。ま。た。け。ふ。三。ん。を
う。あ。ま。う。た。ふ。す。せ。つ。さ。ん。さ。し。な。と。せ。す。て。は。い。さ。の。な。く。こ。海。の。い
う。つ。く。し。う。ほ。を。い。と。ら。しく。く。ま。を。な。と。ら。う。た。け。ふ。な。ら。ひ
う。なり

あふ。装束。の。上。を。い。ひ。て。う。ふ。ま。ま。り。て。大納言君。の。う。た。ら。を。い。う。つ。ふ。く。と。は。
こ。れ。く。下。なり。す。せ。つ。さ。ん。髪。の。す。け。な。り。え。う。い。ま。の。小。様。の。髪。の。さ。し。さ。海。と。い
ふ。と。あ。て。本。の。枝。う。さ。し。は。う。海。を。枝。さ。し。と。い。ひ。月。の。お。を。こ。う。て。え。さ。う。海。を。い

な。こ。さ。し。な。と。い。た。い。ひ。な。り。さ。れ。て。こ。れ。を。額。の。際。う。頂。の。前。髪。の。せ。の。ほ。り
さ。せ。る。本。の。う。海。を。い。ま。ま。な。り。ま。い。と。え。な。り。ま。う。ろ。う。ろ。う。と。い。わ。て。う。な。り。う。は。ま
ま。い。ま。え。は。ま。い。と。ら。う。た。け。ふ。ま。を。な。と。ら。う。く。く。な。ら。ひ。う。な。り。と。い
て。い。こと。な。り。ら。しく。と。ら。う。た。け。ふ。ま。を。こ。う。て。下。さ。う。ろ。う。い。ひ。あ。た。に。も。や。ら
う。た。け。え。ア。イ。エ。ミ。キ。な。り。なら。い。う。は。ミ。ナ。マ。カ。か。ら。さ。海。な。り

せん。の。若。は。さ。や。け。人。の。い。と。ほ。ま。や。う。ふ。ま。い。え。て。う。み。の。す。ち。こ。海。や。の
い。ま。ら。う。は。て。い。ひ。さ。う。れ。す。あ。ら。う。一。尺。を。う。ら。あ。ま。り。法。つ。う。い。と。い。え
つ。う。け。ふ。ま。を。な。く。あ。ま。を。さ。海。一。尺。う。お。ら。う。さ。し。あ。申。と。い。て。い。た。れ
え。い。た。ま。を。う。ろ。う。ろ。う。ん。つ。い。ひ。せ。う。ま。あ。ち。に。あ。て。な。ん。と。う。ろ。う。て
せ。あ。う。め。を。い。ま。ま。の。う。ら。の。い。ま。ま。に。は。申

たつさしとさめくくいぬぬるやうたひをこぼふとらたてて
志けよるんぬ物ういよそのさけぶくくくならたりとて
のあまひさちまなと人おすくれなりうらつさんきししたひつまなと
そあぬものさけとええてそをやふぬまやうつたたりありにと
てをてんかゆなともめやすくつゆえういづるさゆおとうーあめた
ひうたなくす入てさうせあめと人のためーにーつさんうをえん
う。さーめくうたえな

をうーけよまよとさーがーいんうよを得れつあぬのあまひつににぬあひとい
あまぬのまゆなれいんうさうさあぬさす。今うよとゆく印とら
うよや物だあたりあまこほしちあぬまをなとそたりえんがりい

ういんかんととてつるさゆさーめくこぼすにさくーうんとと
てたれさゆあしそなたさうたあにぬさーとあこれなりうい

あまのうたやもあまー。数かたさう。まこしよさあ内信のさゆをー
式影のねとはねさうとさういよささけさすたてあえな人のまい
とろくおほひてうほさいとこぼふさーあまうみさいさくう
そーさうなうけあまさうーはうらひたさうーた。あおそあまふ
とらなやうたひのいよをうーけあをゆうーうぬ。あひたひつきたと
あことふさけなう。うちあえたあまさゆをねほく

おとうといま内信のサナう。さーあめさ。ゆえさーあけなうをいよはく
ういたささーてく。なうぬ髪をさささあふつらひたをうゆ

おをすも月つきをきり。りもめ。さる中つたをもち。新中せ。これぞ。式部おれよのきふなり。さうけなり。新中にならう。さうの中。うらら。とねも。は。こたゆ。けん式部この二人をとり。決り。小たまのきふなり。小たまは。きやうなる人の。きうたゆ。い。い。きふ。て。う。え。く。きとは。い。こ。ち。た。て。な。け。お。一。尺。さ。あ。ま。う。なり。け。を。た。ち。は。こ。て。け。い。う。ほ。こ。う。と。く。い。う。あ。な。を。い。の。ん。や。と。き。え。を。て。け。い。たちをほすきふなり。

きとは。髪のことなり。ねらほるうは。髪のおのヌケスボケたるなり。こたゆて小たまのきふなり。小たまは。新中になら。一尺さ。新中になら。

源式部は。なけ。う。ね。ほ。と。き。ひ。や。う。な。ほ。と。あ。て。う。ほ。こ。ゆ。や。ふ。え。る。ゆ。お。い。と。を。う。く。ら。う。た。け。な。け。い。ひ。ま。の。さ。ら。く。う。え。く。ふ。人。の。む。い。め。と。ね。ほ。申。う。き。ふ。なり。

たけらねほ。よ。き。ひ。や。う。と。は。ゆ。く。ふ。さ。ひ。さ。を。う。め。を。い。よ。う。さ。う。は。り。つ。ぱ。り。と。う。た。う。き。ふ。なり。これにて源式部のきふなり。

小玉。ゆ。な。と。い。と。さ。け。し。け。し。け。し。け。は。屋。上。人。に。見。え。の。こ。は。す。く。な。う。な。り。た。ま。き。と。ま。さ。つ。て。は。う。ら。れ。な。け。れ。と。人。の。ほ。を。さ。ら。う。い。す。ら。に。う。ら。れ。て。け。こ。り。

屋上人のき。ゆ。き。ら。ん。た。人。なり。と。い。ふ。き。を。う。た。れ。ゆ。き。た。れ。と。い。た。ほ。ろ。人。を。う。ら。れ。て。い。ふ。初。を。れ。と。い。ふ。と。い。ふ。う。ら。れ。う。と。う。さ。つ。て。い。う。う。ら。れ。

り。これすうたさちんせきをひつるていつなり。あのおほの
 如房もすうたさちんせきにらたると又あつたを師とたれ。こ
 ろくさ。いれやうと。新しと。こころをいれさうにら
 りたふゆ。あつたを師とたれ。これゆと。いふをさる

さまけしうきを修ると。あつた。あつた。あつた。あつた。
 さ修りたるありて。人のことか。うきと。あつた。あつた。あつた。
 見せ修りし。いさうえんか。あつた。あつた。あつた。あつた。
 たるいそあつ。すうたさちんせきにらたると又あつたを師とたれ。
 あり。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 いふに。いふに。いふに。いふに。いふに。いふに。いふに。

けーくぬげうあぬと。同知をい。又さうてけい。こころをいひて。
 伊ヶミカラ又とりふ意なり。と。雅語款解に見たり。こまは。いせけなり。といふ
 なり。ぬきを。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 なるといへる。たれなり。たるいさをいひ。さてこの中。中おのけうぬは。あつた。
 見えと。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 伊と。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 ことさういふ。いふなり。いふなり。いふなり。いふなり。いふなり。いふなり。
 うと。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 女院なり。このころ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 選子世に。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 官為。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 見たり。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

とゆふふのふさふさしたるるをひきつけしむるの着きたり。されどもけふ
ころよはそゆしてをうらうらしくうきとなく。あしくうきハ切者
ラシイ。と推語訣解にあり。不は。女院をいふ
さうらふ人をうらへていふ。海人は。このえげふささたりの人。ふらふ
けいさく。うらへ。うらうらを。つひふひりたちて。えさ人を

このえげふささたりの人を。中まよこの女房とをさう。つひふひりたちては。
女院。つひにひりたちて。そけあめさく人々をさう。女院。えせをなれ
たうたなれえさう

をうらひ申すつくら。申急あさる。明花のたうら。ほとけけのたつひ
不にすめうたきは。院は。いといふの申急たうて。不は。たふえ。いとらは

なれ。えんさひたり。又ほさうことさなう
あつひふりたちて。えさ人をさう。ななくをうらふ。夕月。あさるのさう
に。ありたま。いといふをさう。されと。つうううたうたおさゆ。けいふ。これ
ありたうら。院。え。そは。女をさう。さうて。いふ。いふの申急たうて
枕草子。こや。院。え。その。院は。つこふ。けきとをう。師。下。
このころは。いとめて。な。い。い。ひて。この。大。女。院。い。と。名。た。う。ら。た。え。う。た。え。不
れ。さ。海。と。は。花。鳥。録。情。に。延。喜。式。ま。ま。即。廻。帰。便。田。野。宮。ま。ま。す。れ。え
ら。禁。野。の。野。ま。入。給。ふ。と。ゆ。禁。野。の。子。海。を。う。さ。れ。え。世。を。な。れ。ま。ま。と。い
へり。え。さ。い。い。お。う。ら。た。う。海。を。う。又。す。ら。と。こ。と。を。と。と。い。休。事。を。記。を。い。ひ
て。次。こ。を。う。を。い。ひ。う。不。の。さ。海。数。中。平。に。ら。う。

うへ小治りのほりせ給ふ。そは、屋敷中あり給ふ。此のめなるたよと
そのさうしにあらうと給ふ。

そは、中まのうたふ給ふは、給ふ。そよつ小に居る。うへ小ま。
禁中にて、幸れ。此の中まのほりせ給ふこと。或は、送長公のまわ
り給ひ。又は、うへのいよめさせ給ひ。なと。うへ中まのいよめに、給ふ。こと
此にほりし。と。うの。女院を。まう。には。さうし。に。あらう。と。ぬり
と。て。ほけ。に。の。つ。う。う。この。む。本。と。な。り。ぬ。れ。は。え。ん。な。る。こ。と。と。ぬ。を。つ
く。え。ん。中。に。な。に。の。あ。う。な。き。い。ひ。す。く。一。を。は。し。給。ふ。ん
と。て。ほけ。に。我。の。む。す。ら。に。モ。チ。コ。シ。テ。な。り。う。へ。の。領。知。す。ま。あ。て。は。紫。野。の。女
院。の。う。へ。へ。を。枝。の。と。領。知。した。よ。き。ま。は。を。い。つ。な。へ。し。この。む。本。に。う。へ

とを。う。め。ら。ろ。つ。え。ん。な。る。う。た。の。よ。き。この。ゆ。く。する。あ。ら。う。この。ま。い。せ
え。な。り。て。お。小。治。り。ぬ。れ。給。ふ。ま。た。り。に。て。い。ま。う。この。む。す。ら。小。モ。チ。コ。シ。テ。に。乃。つ
こ。し。そ。や。う。を。領。知。した。す。は。て。え。ん。な。る。う。た。の。よ。き。この。ゆ。く。する。本
と。な。り。ぬ。れ。え。と。い。ふ。ま。あ。て。ま。あ。て。の。ま。あ。て。え。ん。な。る。う。と。ぬ。を。つ。く。え
ん。に。な。り。つ。く。え。ん。一。つ。く。え。ん。の。ま。あ。て。あ。ら。う。な。り。に。要。な。ら。ぬ。あ。て。要。ふ。う。う
ぬ。ま。あ。て。の。ま。あ。て。い。ひ。す。く。一。を。は。し。ま。あ。て。中。ま。の。う。た。に。あ。て。は。ま
あ。て。に。た。ほ。り。ぬ。れ。に。え。ま。あ。て。な。る。て。つ。ま。に。あ。て。つ。け。ま。あ。て。ぬ。れ。を。後。ま
あ。て。に。フ。テ。ウ。ホ。ウ。な。と。い。せ。し。と。い。ふ。ま。あ。て。

う。へ。と。う。ぬ。れ。本。を。う。ぬ。れ。た。ん。ま。あ。て。う。の。院。に。ゆ。ら。ひ。給。ふ。は。ま
あ。て。に。あ。ら。ぬ。ま。あ。て。に。あ。て。あ。ひ。ま。あ。て。ま。あ。て。人。の。あ。ら。う。な。り。ぬ。れ。を。い。ひ

おぼろしきなつなをよこす申さうしくねのつらうなめさなひゆ
んをや

うかれ本をきとはきくく世もあらぬ武藝うこつうのんや
とて卑下した詞やう。師らひゆは。女院にま行し正はの
そこそは。女院にてなり。あぬをよこにき。あぬ男なよあて。まに
てあひやう。かれしよとい。おぼろしきなつなをよこすとい。ま
のおぼろしきなつなをよこすとい。あやうなれひすく。あやうな
たれ。神まひたあやうにては。そんれあやうなれひすく。あやうな
と申さうしくねのつらうなめさなひゆ。あやうなれひすく。あやうな
えん。あやうなれひすく。あやうなれひすく。あやうなれひすく。あやうな

り申てあやうなれひすく。あやうなれひすく。あやうなれひすく。あやうな
ひひあひすく。あやうなれひすく。あやうなれひすく。あやうなれひすく。あやうな
うしく。あやうなれひすく。あやうなれひすく。あやうなれひすく。あやうな

おぼろしきなつなをよこす申さうしくねのつらうなめさなひゆ
んをや

うかれ本をきとはきくく世もあらぬ武藝うこつうのんや
とて卑下した詞やう。師らひゆは。女院にま行し正はの
そこそは。女院にてなり。あぬをよこにき。あぬ男なよあて。まに
てあひやう。かれしよとい。おぼろしきなつなをよこすとい。ま
のおぼろしきなつなをよこすとい。あやうなれひすく。あやうな
たれ。神まひたあやうにては。そんれあやうなれひすく。あやうな
と申さうしくねのつらうなめさなひゆ。あやうなれひすく。あやうな
えん。あやうなれひすく。あやうなれひすく。あやうな

せせにそのぬめた。うのほきよものといひをくまひあたりとなく。せとこ
と。如きぬとゆーさよとをたぬか。うちとけ

これと。師こもるる人のきききうけて。サウチヤケトとさう。けりひは。ス
アツたう。そのぬれたうのほきよもの。女侍。后の御局よをいよきゆたう。まて
うちとけの下に。うぬくは。なりなと。いよの。様た。なをへ。うちとけとのまに
ては。これといよ。ゆきを。うぬを。は。次の。ゆきひを。なく。むけ。ふさ。こ。ぬ。と。さ
り。又。いひ。さ。て。ふ。あ。た。う。ぬ。と。さ。う。ち。と。け。な。と。あ。て。を。と。の
え。は。た。れ。は。う。ち。と。け。た。う。と。い。よ。さ。ふ。る。て。ゆ。く。ま。ぬ。の。ま。な。れ。と。も。ゆ
内。に。た。り。の。あ。り。ま。ゆ。に。を。た。ぬ。て。ら。う。ぬ。なく。と。う。さ。つ。て。は。あ。う。か。さ。か
こ。す。い。も。あ。り。と。い。よ。さ。か。か。り。

こまのさうとて。あめう。きを。は。い。と。あ。え。く。と。た。け。ゆ。め。た。ま。は。す
こ。し。ら。ろ。う。う。ん。と。い。よ。人。は。た。ほ。ろ。け。に。て。い。て。か。ゆ。く。は

これらう。下。糸。流。小。む。う。て。枝。う。い。ゆ。の。よ。を。い。よ。ま。の。さ。う。と。て。は。中。ま。の。ぬ
あり。ま。ゆ。と。て。は。の。ま。か。う。ぬ。め。う。い。ま。ま。は。ま。は。の。如。房。と。の。さ。う。あ。え
と。た。け。ゆ。め。た。れ。は。あ。め。に。さ。ま。ま。を。い。よ。帯。本。ま。に。あ。め。に。く。ま。て
と。ま。あ。り。す。こ。し。ら。ろ。う。う。ん。と。い。よ。人。は。と。つ。う。ら。ろ。う。う。ん。と。い。ひ。た
さ。人。を。り。ま。ま。の。人。は。さ。う。い。も。あ。れ。は。た。ほ。ろ。け。を。は。い。て。か。ゆ。と。ぬ。う。た。け。ほ
ろ。け。を。は。一。下。ホ。サ。ニ。テ。ナ。リ

んやほくもの。えらせは。と。あ。う。ん。う。う。ん。の。な。を。ま。ま。に。ま。ぬ。人。を。た。こ
と。な。う。ん。ま。ま。の。あ。ま。も。な。く。や。は。た。さ。ま。の。人。に。や。ほ。き。ゆ。た。う。た。ら。ら

りて。うちうたは中まのうぢもれたる。そはうぢなると
もひひ修なまへ

これまたのうぢあは禁して。うぢなれをいふやほく。いふは。うぢに
んやなく。いふやほく。いふやほく。いふやほく。いふやほく。いふやほく。
たて。さうのうぢも。あは。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。
うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。
ふれて。んやせのうぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。
んやせは。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。
師。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。

うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。
うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。
うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。
うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。
うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。

よら。中ら。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。
みして。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。
うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。
こと。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。

うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。
うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。
うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。
うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。うぢなれ。

すにやても、然らず文またより、もたつるきはあまうひきひりてあるは、中
 道の四方に、餅をかきしきふはあして、えききとせしとけり、上層中
 層などは、身れら添ふつけて、らたはふあ、海平にせりよ、これとは
 きの心ななく、きの人と、この上層中層のおすうひきり、けりすめさた
 なとせりふ、ゆきすめれとは、はらさうやれと、いんごう、この中ねの清志
 れうちふ、これの女層とも、えききとせしとけり、人ときが
 一の勝者はあれ、この女層とは、けりとせり、きのききりく、やて
 といくとせ、新しきけり、ききり、ききり、かたはあ、餅とあすうにひきひり
 た、人をいふ、ききり、新しきけり、ききり、ききり、ききり、ききり、ききり、ききり、
 されと、ききり、ききり、ききり、ききり、ききり、ききり、ききり、ききり、ききり、ききり、

とう、これゆらんを、いとうたを、きんた、ちうたを、いとうく、なまけか
 う、ほも、おれと、えけり

まめだつは、くじツメカスなり、せふの下に、上層中層などの、といふ、記を、いれ、
 ん、う、う、た、え、か、き、ん、い、え、き、り、え、き、フツ、ガ、フ、ナ、といふ、意、なり、深、注、拾、遺、が
 うた、ま、と、け、の、惟、名、得、う、て、ほ、ま、こ、れ、か、い、た、ひ、て、得、れ、り、も、の、片、羽、さ、り、い、の、詞
 な、れ、ま、う、た、ま、と、け、り、ま、ま、と、え、ん、た、り、ま、た、を、い、す、て、の、タイ、テイ、ヲ、キ、ン、を、ま
 さ、け、ま、い、す、て、な、ま、け、と、い、ふ、を、い、ら、う、つ、ふ、ん、ま、あ、を、い、ひ、り、今世にあらまうつて
むすのそよばはひたり
それこそけのうらひのいろにもゆれと、それこそゆれに
えいしあそいをとよと、わな一さまれ、深なり。 され、い、お、の上、層、中、層、に、あ、す、う、に
 ま、ま、な、う、て、ら、た、ほ、ふ、あ、れ、り、と、え、き、と、あ、り、ま、ま、お、れ、い、が、よ、ま、の、詞、を、う
 され、ま、ま、う、い、ん、あ、り、ぬ、本、を、く、ら、り、く、い、ん、に、き、れ、う、か、た、お、を、あ

かりに物いせせし結ぶるふなにはなほひびく。ひびきてたぐんとう
しるやほくえちなだ人はせふらたえきめとねけりなむひたりけふ物
のむくなど中なること。ひびきたるはねとらたさなる
ら

これはこの後いふよふうらところを原はほきめてはを遅れるなり
一。情きこの後いとら。あつはなほとあつあつなり。せつひてにいそふ
にくたえ。すれものせつひつものせつひひく。てさつふ人ともそのるえあへ
しといふをふくあつ。そつひ。し。れきふ。うらぐの申きう。し。中まのれ
ふゆき。く。ふ。つ。な。ひ。た。く。も。た。て。う。け。文。な。れ。い。ら。う。せ。は。え。み。ん。人。ん
えあふへ。し。と。い。え。れ。は。り。あ。あ。ぬ。本。を。く。は。フ。ソ。ク。ナ。本。か。く。な。り。な。に。と。も。い。ひ

い。こ。は。中。ま。の。い。ん。ふ。お。房。き。ふ。な。た。よ。い。ひ。ひ。て。い。ま。け。て。あ。れ。う。と
やうにねし。け。た。い。ん。を。え。き。う。し。さ。い。ん。ま。の。ほ。と。を。け。る。文。な。り
さ。い。お。ふ。あ。れ。あ。つ。ひ。て。あ。つ。ふ。ら。あ。れ。く。ひ。ひ。て。た。ぐ。ん。と。せ。ま。う。し。ん
か。た。く。も。ち。な。き。人。は。中。ま。の。あ。つ。た。え。と。の。ね。け。り。め。り。な。い。ひ。たり。と。な。り。う
し。ろ。た。く。い。ら。い。ん。ひ。さ。う。を。人。不。足。て。ま。ゆ。と。も。あ。ひ。て。い。ん。や。た。ら。て。ふ
こ。ま。あ。つ。ひ。て。あ。つ。た。え。人。は。ま。ら。せ。を。ち。よ。あ。つ。を。ぬ。人。な。り。け。ふ。ま。い。式。類。う
へ。あ。い。ま。う。て。い。ん。な。り。に。あ。れ。さ。い。改。の。た。た。か。う。と。せ。い。ま。て。あ。あ。上。落。中。落
の。あ。あ。う。ま。い。な。ら。う。を。な。け。か。う。け。と。ぬ。と。い。ひ。又。う。す。ね。て。中。ま。な。り
と。う。せ。た。ま。き。と。い。ひ。て。た。た。た。ほ。よ。あ。く。し。け。り。さ。う。あ。つ。を。と。ま。う。たり。
次。に。あ。つ。の。い。ん。と。い。ひ。たり

あーだもすにたもたれたも。さあはらへーきうて。このまゝたりのこ
と。盛上人となにをめなまじ。よおやうーだもぬーと。あしひく入ら
ぬこと。あーろーめたり

はらへーきうて。い。あーろーめたり。人係まり。なにを。盛上人を。ぬ。そほり
の。こと。い。ま。か。う。あ。な。れ。て。は。つ。ま。に。い。う。た。つ。ゆ。か。な。れ。ま。う。

さりとて。ふに。さ。と。あ。う。ま。て。ほ。う。さ。つ。せ。は。い。と。あ。そ。つ。け。い。よ。い。て。く
は。ぬ。う。う。な。ま。け。ぬ。く。い。さ。い。れ。た。う。う。ー。と。も。あ。う。か。ん。と。た。ほ。ー。の
清。え。ほ。と。さ。の。ぬ。く。ひ。な。ほ。う。う。た。く。又。い。ま。う。れ。え。ん。た。ち。と。い。よ。も。だ
あ。う。た。か。て。あ。う。か。う。ま。ぬ。ま。ぬ。人。か。

う。と。い。上。の。う。ち。こ。ぬ。た。人。の。ぬ。き。う。か。ひ。に。け。な。ま。い。く。あ。う。ま。う。

けて。い。り。い。て。さ。物。う。う。い。う。う。ー。と。も。あ。う。か。ん。へ。係。り。て。う。う。ー。と。も。あ。う。か
ん。と。は。解。り。ふ。か。ま。け。ぬ。く。い。さ。い。れ。た。女。房。を。と。は。お。ふ。ふ。れ。て。あ。そ。つ。け。い
と。ま。い。で。ま。た。い。う。ま。う。に。て。も。あ。れ。う。ー。と。た。ほ。ー。の。清。え。ほ。を。い。よ。ま。は。
ぬ。と。や。さ。な。に。ほ。と。ま。あ。れ。今。い。や。う。く。た。と。ま。い。ま。ま。活。ひ。て。せ。の。あ。う。ま。い
ま。盛。上。人。な。ま。の。ー。う。く。い。ふ。う。ー。ま。ま。い。ぬ。ろ。ー。め。ー。た。ま。い。す。こ。ー。い。ま。ま
か。て。も。あ。う。か。ん。と。た。ほ。ー。め。ほ。を。い。よ。か。う。ー。と。ま。い。と。ま。と。ら。う。れ。か。う。い。の。な。ほ
り。た。た。て。解。ひ。さ。い。り。て。あ。う。か。う。物。う。う。い。う。う。ぬ。を。い。つ。こ。も。ぬ。ぬ。ぬ。な。う。う
と。い。ま。ま。か。う。ま。ん。た。ち。と。は。折。家。法。花。の。子。息。た。ち。を。い。よ。か。う。ま。い。と。ま。い。と。ま。ま
曙。秋。に。折。家。大。臣。の。息。を。う。て。も。道。場。か。お。才。お。を。い。て。納。ま。い。上。京。の。ほ。ろ。人
人。を。い。よ。か。う。と。い。う。い。つ。れ。あ。も。か。む。と。な。ま。う。た。の。表。を。ま。か。う。た。あ。う。う。た

ハ胡蝶堂にぐのたふれとゆやまの根補まにたふれと書へたふれ不
甲^ハ作とせは浮りなりとをたると同^ハ修やとされたまめ人なりといふ
とは表裏なりいふうう一はたふらうたやまとはまめ人なりといふまめ
さうに女房なともいふさうにてえん小な備めうさうたえたふれはうといふ
にもやまめ人はトクモツモノなり。たう考へへ。情もこれあて人なりといふ
まめやまめ人なりとうちまへてうをいふにそまをひらいていふまめあは
るといふいふ

女流なとやうの系にて月やとえ花やとめつひたふらのえんなること
は。たのつうう。まともあひてまめやうんあさ申したち師^ハ申うけを
さそたりふたことやまめさうせうちひひまめはまめうけことやまめい

いふけうれて。ゆへそちなうにすへき人かんふたくなりにたつと
そ。人こはひひゆめ。まめつう。まめえゆめことなれえ。えうらほう
まめめあひてもいふんとは。戦ふらう。まめあひてまめやうんあて。女流や
たの女房とも。うのたふらうたやて。まめ人なり。女中人とまなとに。いふんやう。
まめ。まめさ酒をぬとせをなれえ。まめたり。またまたまめまめ。まめまめや。まめ
へまめけてえへ。あさ申入まは。中まのまめさまなり。たては。えんかまこと。ま
あて。つひのたままなり。いひひけい。女上人なまめいひひけいなり。ゆへん
は。いひひけいれたる女房のまめなり。人はの人も。女上人なとなり。まめまめまめま
ちなうにすへき人のあやなや。女上人なと。まめまめに。まめまめまめまめ
ぬ^ハまめまめは。まめまめまめまめ

うぬく人れたらう。もうなれた人を見せようか。にんごうひきい
てんろあや—だいたう。とまあ。あつことなり。これを人の心あり
うた—とはひかひあり

あつににんごう様れり。にんごう。だちうてひいたる人のよみよみ。海
—さか文をと。物とほら。たのよ。あつににんごう。あつ。あつ。あつ。
や—とはひかひあり。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
ぬ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
いよ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
て。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
と。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

かり。だつ。だつ。だつ。だつ。だつ。だつ。だつ。だつ。だつ。だつ。だつ。

なと。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
いたけて。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
た。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

お。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
ふ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
う。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
ん。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

まつは、齊侍卿文お夫はかり清ひて、まぬせを清ひしことありけるやうに、
 とあへうに、こぬ清ふよらうなちはだぬめん、清ふこと、たゞ、又あひて
 も、なにことやうぞ、く、く、の清ふく、まぬせ、に、ことそのな、中、に、あ、
 わら、に、心、乃、ね、ら、ふ、中、に、に、も、清、く、も、と、は、清、く、も、と、あ、つ、う、と、あ、つ、に、
 う、こと、も、せ、し、も、を、あ、ぬ、か、く、す、入、て、ま、う、れ、と、ほ、の、り、な、る、ま、な、し、を、も、
 え、し、ほ、う、の、人、は、ま、な、き、清、く、ま、な、る、こ、ら、師、ら、ひ、な、り、ぬ、れ、は、こ、ら、な、ま、
 て、人、も、ま、ら、ふ、し、た、う、な、を、た、ひ、め、う、み、な、う、の、ま、て、か、に、ま、
 と、の、一、清、く

う、は、中、ま、ま、の、中、ま、お、啓、に、し、と、ゆ、や、う、に、ま、か、り、た、ふ、ひ、て、あ、り、女、房、た
 ち、の、あ、へ、う、こ、め、さ、て、し、う、ひ、か、れ、あ、ひ、し、う、ほ、の、ち、な、る、ま、な、し、を、も、ま、
 の、下

に、脱、げ、あ、へ、し、ま、な、い、こ、れ、ま、で、中、ま、の、女、房、の、し、う、ひ、な、り、た、ま、を、ひ、て、次
 の、ほ、う、の、人、は、ま、な、き、清、く、ま、な、る、と、は、中、ま、な、く、ぬ、ら、清、ほ、う、の、女、房、ま、は、さ、さ、
 に、い、う、ひ、か、れ、あ、ひ、し、と、な、れ、は、必、ま、の、さ、う、ひ、あ、り、ま、な、し、と、な、れ、を、な、り、あ、
 り、ま、に、い、も、あ、ぬ、か、く、す、入、て、ま、う、れ、し、ほ、の、ち、な、る、ま、な、し、を、も、ま、
 さ、う、に、ま、な、し、と、し、う、清、ほ、う、な、と、あ、つ、ま、な、り、え、の、師、ら、ひ、の、清、奉、あ、つ、あ、
 り、中、ま、ま、の、師、ら、ひ、な、り、ま、て、人、は、貴、人、な、り、う、は、持、姓、し、う、ぬ、ま、人、の、も
 す、め、を、い、う、へ、し、ら、に、い、た、う、ふ、世、同、の、あ、り、ま、清、ふ、か、う、ひ、め、さ、み、な、う、の、ま、
 と、は、ま、な、し、な、り、う、人、あ、て、も、親、親、の、ま、な、し、飛、居、に、ま、つ、つ、れ、た、ま、な、り、
 に、て、の、ま、つ、と、な、り、清、く、師、ら、ひ、の、下、に、と、ま、な、あ、つ、ん、で、脱、げ、た、ま、な、
 へ、し、師、ら、ひ、な、り、ぬ、れ、を、い、ひ、て、は、初、と、の、ま、な、し、と、な、れ、な、り、あ、ぬ、か、く、親、中、に

Handwritten text in a cursive script, likely a title or the beginning of a section.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list.



